

機器分析評価センターの一年を振り返って

専任教員 谷村 誠

2016年度より横浜国立大学・機器分析評価センターに着任しました谷村誠と申します。皆様、どうぞ宜しく御願い申し上げます。

大学院を卒業して以来、昨年度までは民間企業に勤めておりました。そこでは機器分析を取り扱う立場から各種材料に関する研究・開発・生産・市場における問題解決に取り組み、また自主研究として固体材料の新奇状態の探索や解析を行っていました。その経験を買われたためかどうかは分かりませんが、2016年4月にセンター専任教員として着任し、その職務を担っております。

企業から大学へ移ってのこの1年で「組織から個への転換」による価値観の違いを感じる場面が多々ありました。例えば着任早々に直面した名刺問題(?)。これまで名刺とは「会社組織の一員である証」でした。よって入社時に会社から渡され、無くなると会社へ要求していました。しかし移動早々「あれ、自分の名刺は・・・?」。ここでは「自分で台紙を準備し、必要事項を打ち込んでプリントアウトするもの」なのですね。勿論、業者さんをお願いをして作られる先生もいらっしゃると思いますが、要は「自分で準備するもの」なのです。些細な話ではありますが、驚きとともに「組織を重視する企業から個を重視する大学への転換」を強く意識した瞬間でもありました。その後も様々なカルチャーショックに遭遇しましたが、少々マンネリ気味な企業生活を送っていた自分にとっては非常に新鮮な毎日です。そんなこんなで大学生活を楽しみながら、1年間があっという間に過ぎて行きました。

今年度よりセンターではセンター長も交代し、新たに3名の職員を迎えました。つまり、自分も含めて構成人員の過半数が入れ替わったこととなります。そのため、センター内には新しい風が吹き始めており、様々な変化が起こり易くなっています。この1年では新センター長と二人三脚で「機器設置に関する基準」や「運営費利用の基準」を新たに導入しました。これらは機器の流動性や高めるとともに、経費の有効活用を高めることが目的です。俗に経営資源では「人、物、金」が大切と言われますが、これによってまさに3資源に変化を与えたこととなります。これらの変化が目に見えて効果をもたらすまでには時間が掛かるかと思いますが、センターとしての基盤は強化されたのではないかと考えています。

この変化を土台にし、今後は大学での教育研究に加えて社会へ目を向けた活動も強化することを考えています。公開講座等を通じた社会人や高校生との交流は継続しながら、かながわ産学公連携推進協議会での活動を介した地元神奈川への技術提供、文部科学省が推奨する共同利用・共同研究拠点事業への参加なども計画しています。これらの目的は分析技術を介した社会貢献、となるのですがその根底には「科学の楽しさを皆様と共有すること」があることは忘れてはなりません。結果だけを重視しがちな昨今において知的文化としての科学の面白さを伝えられるよう、2017年度も走って行きたいと考えております。

皆様のご指導やご支援を賜りたく、御願いを申し上げます。